

# 古賀駅東口 駐輪場配置の考え方

---

# 駐輪場（駅利用者用）の現況と課題

## 【現況と課題】

- ・ 通路上に自転車が溢れており、景観上の課題がある
- ・ 北側駐輪場の端は駅から200m以上も離れており、利便性に欠ける
- ・ 開放された屋外駐輪場のため、防犯性が低く、放置自転車も多い 等



ロータリーに面した大量の自転車



距離が長く利便性に欠ける（北側）



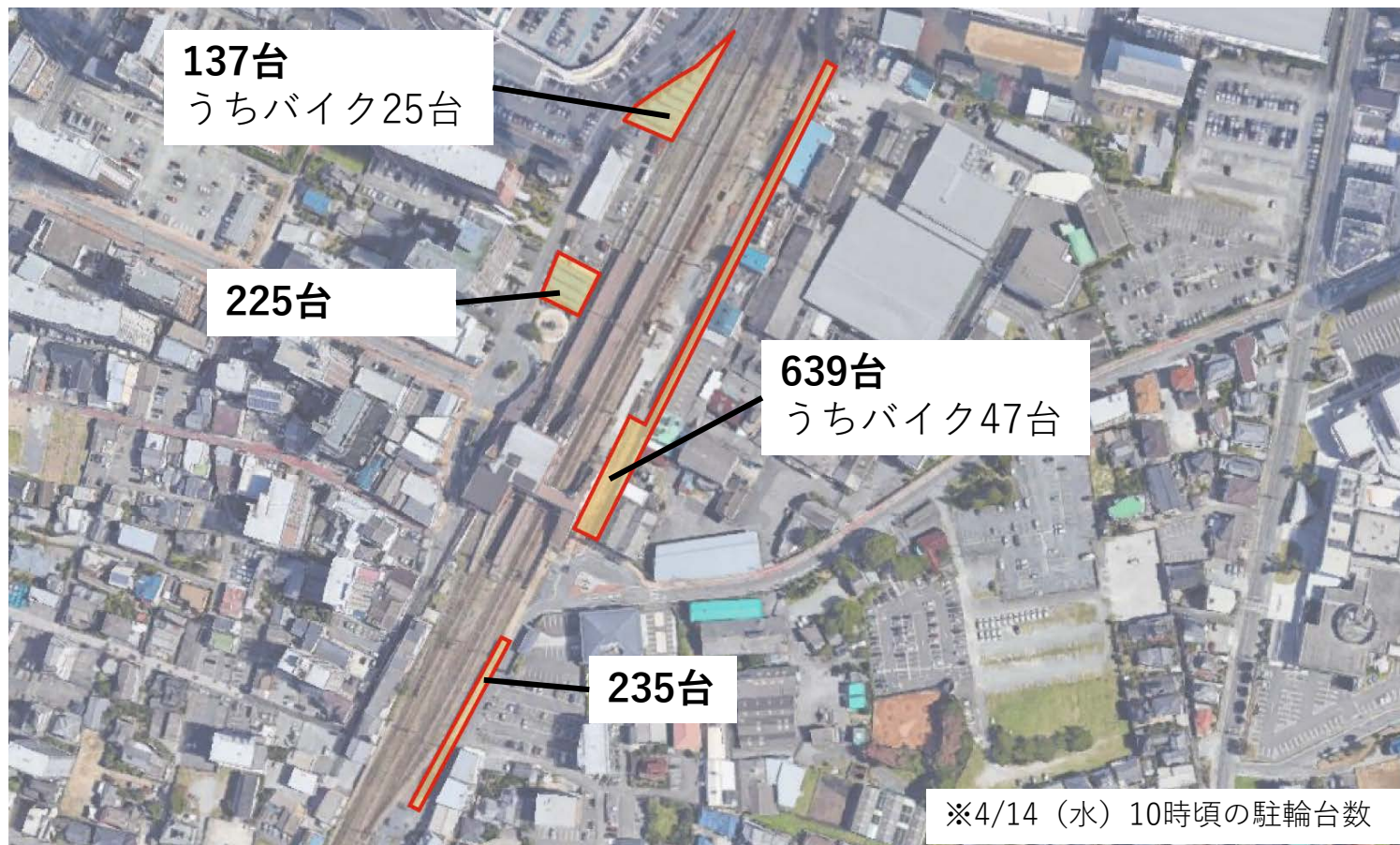
距離が長く利便性に欠ける（南側）

## 駐輪場の再整備の意義

- ・ 景観的配慮による駅前の空間の質の向上
- ・ 配置の最適化による利便性の向上及び交通安全の確保
- ・ 放置自転車等の管理運営上・防犯上の課題の解消

# 駐輪場（駅利用者用）の規模

## 平日10時台の駐輪状況



※駐輪台数の中には長期間使用されていない放置自転車を含む

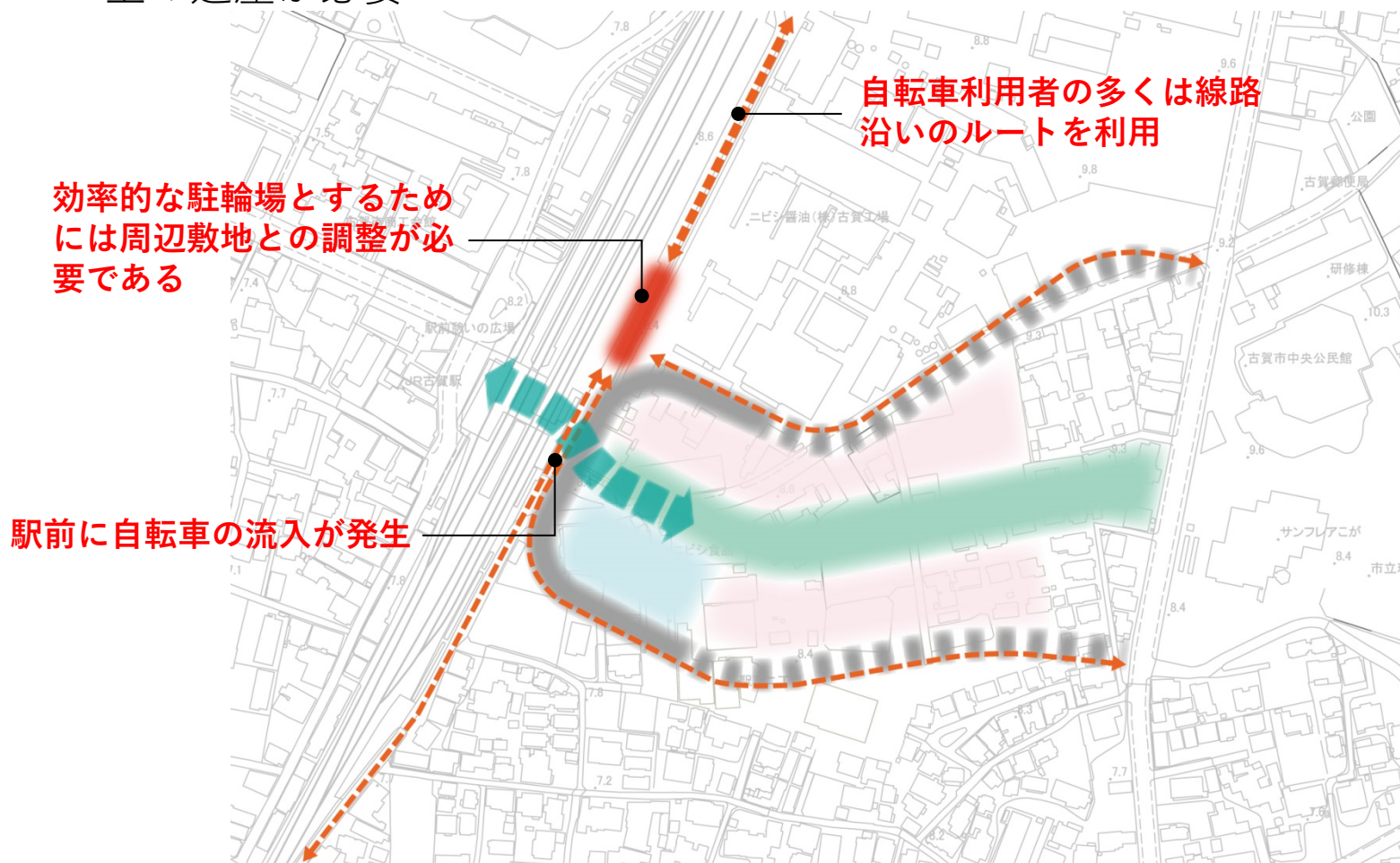


現況台数を精査し、実態に即した駐輪台数を確保する

# 駐輪場（駅利用者用）の配置パターン

## A案：北側線路沿い(現状改良)

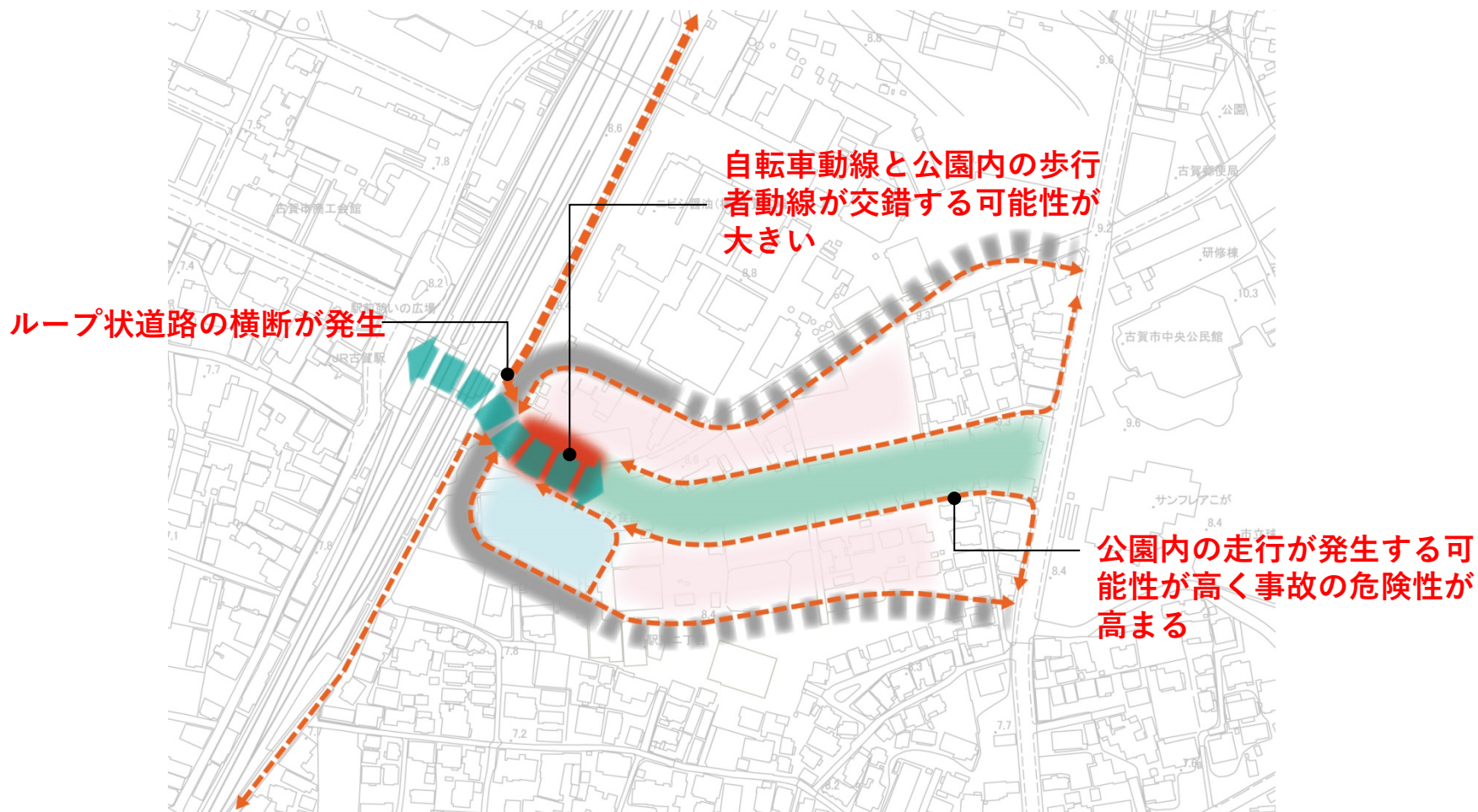
- ・ 自転車動線と車両動線が交錯しにくい
- ・ 南側からの自転車アクセスが駅前に流入する
- ・ 北側のみに集約すると駐輪場が南北に長くなり、距離を縮めるためには2層以上の建屋が必要



# 駐輪場（駅利用者用）の配置パターン

## B案：自由通路デッキ下

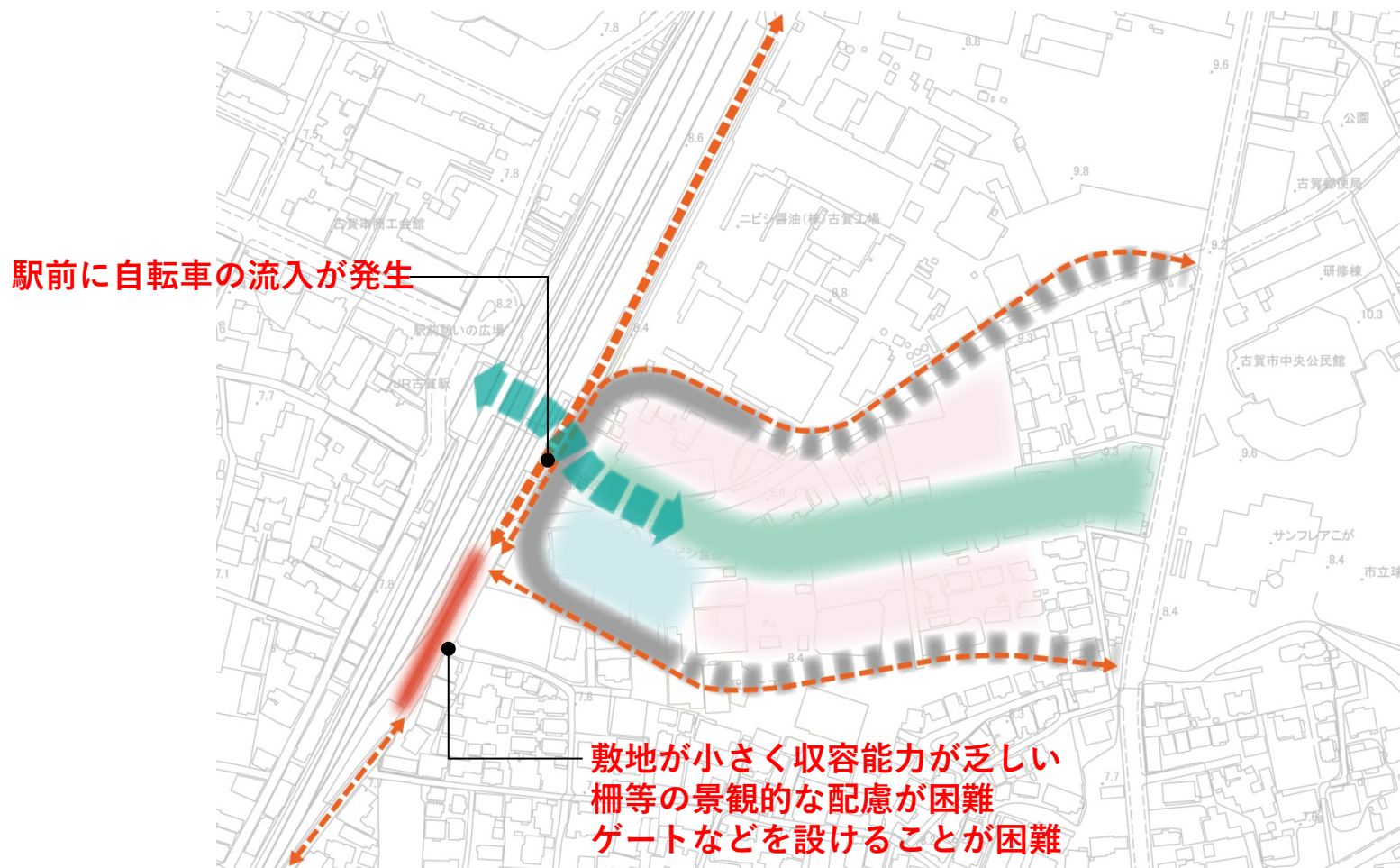
- ・ ループ道路の横断が必要になり車両動線との交錯箇所が発生する
- ・ すべての駐車台数を収めるためには2層以上の建屋が必要
- ・ 公園内の自転車の走行が発生する可能性が高く安全上の課題がある。



# 駐輪場（駅利用者用）の配置パターン

## C案：南側線路沿い

- ・ 駅前を横切る自転車が多く発生する
- ・ 敷地の奥行きがないためすべての駐輪台数を収容できない
- ・ 敷地の奥行きがないため塀等で隠すなど景観的工夫が困難





# 配置パターンにおけるメリット・デメリット

検討パターン	A案 北側線路 沿い	B案 自由通路 デッキ下	C案 南側線路 沿い	D案 南北 分離型
景観への影響	○	▲	▲	○
利便性の向上	▲	○	▲	○
交通安全の確保	○	×	▲	◎
管理運営・防犯上の視点	○	○	▲	○
必要規模の確保	▲	○	×	◎



駐輪場を南北に分けて配置するD案が全ての評価項目において他の案を上回っており、最も望ましい。



# 駐輪場（公園利用者用）の考え方

- 駅利用者用の駐輪場と同様に南北からの公園利用者の利便性・安全性を考慮し、南北に分けて駐輪場を配置する
- 公園が東西方向に長いいため小規模な駐輪場を分散して配置する

